

ほとけの 混和会だより

令和五年六月

東光院

仏の混和会

第166号



眞の自己を求めて 歩むお遍路さん

**慈悲の御心、お接待
に思わず手を合わせ
る。若きお遍路さん**

弘法大師のゆかりの地、
四国八十八カ所の寺院を
お参りされるお遍路さん
は、年間十万〜三十万人お
られるそうです。

そのうち全行程千四百kmを
歩いてお参りされる方は、
二千五百人〜五千人。

この便利な社会に於いて、
あえて徒歩の道を選択する
人も後を絶たないそうです。

お遍路さんは信仰に基づ
き巡礼をする人や自分探
し、そして世間の雑踏を逃
れ癒やしを求めお参りされ
る人などと様々です。

私自身も三十才の頃より
「仏心とは何なのか、私は僧
侶として何が出来るのか」
遍路の道を歩みながら己の
歩む道を探し求めたいと久
しく想いを巡らしておりま
した。そんなある日、
「私、会社を辞めて四国を歩
いてお参りしてきました」と
言う人が来られ大変興味深
いお話を聴かせて頂きまし
たのでここに、紹介させて
頂きます。

その人は「私は人と人との
ぬくもりも癒やしも感じら
れない競争社会に振り回さ
れ、精魂共に疲れ果ててし
まいました。このままでは自
分を見失ってしまおう。社会の
奴隷に成ってしまう。今の生
き方の他に人間として歩む
眞の生き方があるのではと

思い四国参りを決意しました」
と言っておられました。

第一番札所霊山寺、第二番札
所極楽寺、第三番札所金泉寺
と順調にお参りしておりました
が、第四番札所大日寺に向かっ
て草むらをかきわけけるような小
道に入ったところから、雲行きが
おかしくなつて、ポツポツと雨が
降り出して来たそうです。

万全を期して用意した重たい
リュックが次第に肩に食い込んで
おまけに雨も傘ではまにあわな
い大ぶりと成つてしまい、途方に
暮れて居る頃、軽トラックに乗っ
た六十代の人が車からおりて、
走り寄つて来てくれて「これお接
待がんばつてね」と地元の生姜
糖を差し出してくれたそうです。
突然の出来事に本人もどうして
良いか解らず、茫然と立ち尽く
し「有り難うございます」とお
礼を言ういとまも無くその人は
走り去つてしまつたそうです。

後で「そうか、これがお接待だ」
と気づき、後ろ姿を拝み思わず
手を合わされたそうです。

都心では先ず考えられない出
来事に啞然としながら、この出
来事から、「無心のお接待、



すや癒心も癒やす
糖の生姜産の生
高知県の産物

徳を施す優しさ、この布施の心
に、人として生きる喜びや癒
やし、そして生きる指針も見え
てくるような感じを受けまし
た」などとお話を聴かせて頂き
ました。

私は、お話を聞いている内に
お遍路さんのお参りはご自身
の思いを叶える為だけに有るの
では無いように思いました。

お遍路さんはお接待を受け
ながら人の優しさや癒やし、そ
して生きる指針を見いだす事
が出来ます。更にお接待をす
る人は慈悲の御心を育む喜び
を感じ得る事が出来ます。

四国八十八カ所のお参りは、
仏心を育む共生の世界のよう
に思われまし
た。

合掌
亮観拝





日本仏教に登場する仏様を毎月少しずつご紹介。前号にてご報告の通り、庫裏建替に伴い暫く荷物整理と掃除の日々を過ごしておりました。今回は「掃除」を行います。今回は「掃除」を行います。行い悟りを開かれたお釈迦様の弟子を紹介致します。

● シュリハンドク

(チユウラパンタカ)

彼は頭が弱く、時には自分の名前すら忘れてしまう様な人でした。その為修行やお釈迦様の教えも覚えられず、自らの才能の無さに絶望しお寺から去ろうとします。

そんな彼に「自らの愚かさを知るものは愚かでは無い。自らの愚かさを自覚できない者が愚かである。」とお釈迦様は伝えると一本の箒を与え、「塵を払わん。垢を除かん。」と唱え掃除をする様に言いました。以後毎日何年も一心に掃除を行います。



ある日、綺麗に掃除をした所に子供達が遊んで汚れてしまった。それを達がやっ

シュリハンドクは怒鳴ってしまいます。その瞬間、塵垢とは汚れの事だけでは無く人の心に積もる煩惱や執着心も同じだと気が付き悟られました。

以降彼が掃除する姿をお釈迦様はいつも手を合わせて拝んだといいます。悟りに必要な事は多くの知識や物を求める事ではなく、己と周りをよく観察し小さな事でも継続する事でもある。シュリハンドクは毎日掃除をする事で己の心と周りの人を明るく磨いておりました。

仏教の修行においてまず最初に「心を磨く」行いとして掃除を徹底して教わります。

昨今環境汚染としてゴミ問題が深刻されておりますが、汚れというのは放置すると落ちにくく、綺麗にしても、直ぐに汚れます。それは心も同じ。日頃から内と外の塵垢を払うよう心がけて掃除をする習慣が身につけば、自ずと世界は明るくなるのでは無いでしょうか。

今回掃除をする上で存在すら忘れた荷物が沢山出てきました。これを機に完全に捨てて見ると意外と心の中が爽やかにになりました。

仏教 × SDGs

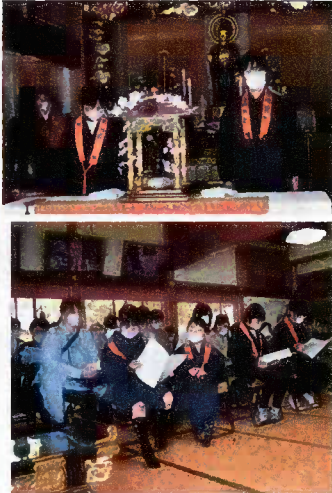
命を尊び
感謝の念を捧げる精進料理

四十年ほど前のお葬式ではせめてこの日だけでも命の尊さに感謝の念を捧げようと、お肉も魚も使わない野菜だけの料理、いわゆる仏道を精進する「精進料理」で参列者に食事の御接待をしました。それも地域の人々が食材を持ち寄り、共に助け合いながらの手料理でした。

私達は様々な命を頂いて生かされております。しかし命を食する私達は、マグロ、エビ、イカ、様々な海洋生物を激減に追いやってしまいました。

命の尊さに感謝の念を捧げ共に助け合う環境が出来たら、少しでもSDGsに貢献出来るかと思えます。亮観拝

行は釈四
いな尊月
まの九
しつ誕生日
たり生
°を会



七歩、あひて
みんな幸せに
成りますようにと
お祈り下さい。



お陰様で、とても
楽しい花祭りに
成りました。心より
御礼申し上げます。